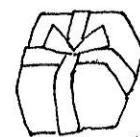
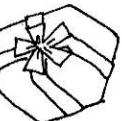


クリスマス

のおはなし



櫻崎 茜
作

(913カ)

「ボクシング・デイ」

12月26日はボクシング・デイ。
一日遅れてクリスマスプレゼントを開ける日。すべての人が25日にプレゼントを開けられるわけじゃない。事情があつて開けられない人もいる。
「ち」と「き」の発音ができない葉が通う「ことば」の教室の佐山先生は、みんなより一日遅れてしまってもいいんだという。でも葉にとつて先生ヒ過ぎず日々は、毎日が新しいプレゼントを開ける連続だった。



(933
モ)

「世界で一番の贈りもの」

マイケル
モーパーコ
作

がらくた屋の店先でぼくが見つけた古い机。秋葉の引き出しにしまった手紙には、戦場で起きたおどろくべきクリスマスの奇跡について書かれていた…。
手紙に記されたぼくは、宛名から持ち主を探し出し、それがさらに優しいクリスマスの奇跡へつながって…。

P·R.
ギフ
作

「あたしの
赤いクレヨン」

12月の最初の日、先生が言った。

「12月はクリスマスのように、ほかの人をしあわせにしてあげる月です。クラスの中からひとり、ひみつの友だちをえらんで、いいことをしてあげましょう。」先生に言われて、ジルをひみつの友だちにすることになったエミリー。でもジルなんて太っていて泣き虫で、ちっとも友だちになんかなりたくないよ。最初は不満だったエミリーだけ…。

O·L.
キアケゴー
作

「ニッセのポック」

(949キ)

ニッセはクリスマスが近づくと、みんなの家にやってくる小人のこと。白いひげに赤い帽子をかぶっているけどサンタみたいにプレゼントをくれるわけじゃない。おかげでおかゆとビールをあげると、お礼に家のこわれたものをこつぞり直してくれたりするけど、うっかり忘れてきげんを損ねると、とんでもないいたずらをしたりする。さて、今年ぼくのおじいちゃんの家にやってきたニッセはポックといふ名の大變ないいたずら署らしく…!?



(943ラ)

A.
シュタイン
ヘーフェル
作

「ヘルジカが
帰ってきた！」

クリスマスのせまつたある晩、ぼくの家の屋根をつき破り、なんヒヘルジカが帰ってきた。ミスター・ムース」と名のる彼のボスはサンタクロースで、トナカイにかわって試験飛行中、あやまつて空からおちてしまったらしい。ケガがなまるまでぼくの家にいることになったミスター・ムース。そして、クリスマスの晩。ぼくと彼がこっそりねがっている、クリスマスのねがいはかなうのかな…?

